新建ちば
新建築家技術者集団　千葉支部機関紙
2026／11
No.308

千葉の考現学

千葉県豪雨災害―2

９月２１日に関東に接近した台風２５号がもたらした豪雨は千葉県中部から南部にかけての各地で深刻な被害をもたらしました。千葉県では死者７名にも及びました。

佐倉市は再び冠水、酒々井町開運団地は水没状態、印旛沼では堤防決壊で広い範囲で冠水し、近くの養魚場ではほとんどの飼育養魚が流されました。佐倉市に９月２３日様子を見に行ってみました・市街地の冠水はすっかり引いていましたが、その外れに広がる水田地帯はまるで広大な海の底に沈んでいるようでした。１０月１０日時点で鈴木さん中安さんと見て廻ったところ、印旛沼では決壊堤防は復旧して冠水の様子は確認できませんでした。次に行った総武本線南酒々井駅に近い開運団地は全く水が引いていませんでした。どういうことなのでしょう。本稿に続きます。

（写真・文：加瀬澤文芳）



佐倉水田地帯　普段は緑一色



印旛沼堤防



開運団地



＊目次＊

新建 ちば
2026年11月号
No.308

02　目次・企画予定表　旅の想いでスケッチ No23　鈴木進
03　千葉豪雨災害－２　加瀬澤文芳
06　街の街路樹１　泉宏佳
08　全国幹事会報告　中安博司
09　第 49 回世界まち歩き１南フランス：ニースからリヨン、パリへ　高山登
12　事務局だより

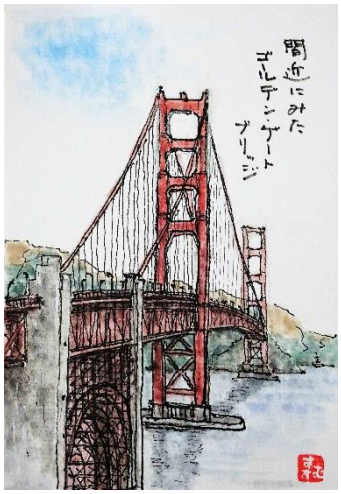
＊企画予定表＊

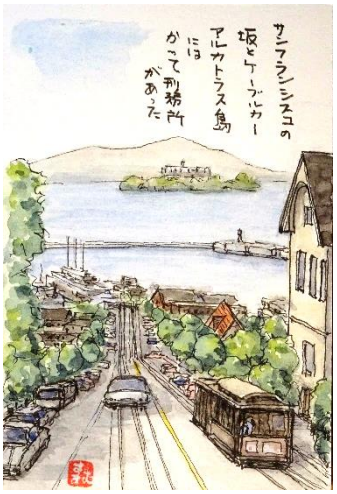
月	支部企画	その他企画	全国・他支部企画	その他
11 月	8 日東金ウォッチング		2 日常任幹事会 Web	10（木）20：00～ Web 支部幹事会＋交流会
12 月	10 日総会 Web			
１月				14（木）20：00～ Web 支部幹事会＋交流会
２月				11（木）20：00～ Web 支部幹事会＋交流会

【旅の思い出スケッチ No23】

鈴 木 進

● 国外編（アメリカその1 サンフランシスコ）





1995 年に、海外のハード面での福祉施策を調査に行った時に、ヨーロッパからサンフランシスコまで足を延ばした。ここは、1990 年制定のアメリカ人障害者法施行後の状況調査が目的だった。

大学の先輩、つくば技術短期大学の萩田教授が偶然同じ期間に車いすを利用している方々と一緒に行くとのことを聞き、同行させてもらうことになった。カルフォルニア州立大学バークレー校に行き、校舎やキャンバスのバリアフリー化が整備されていたこと、学習障害を持った学生も入学できること（寮に入り、一年間の自立生活プログラウを受ける）などを見聞きし、驚きの連続だった。ご夫婦とも車いすを利用しているお宅の訪問、車いすの工場の見学などもできた。町のバスや電車のバリアフリー化も進んでいた。サンフランシスコは美しい町で、急坂を行き来する路面電車、その急坂に連棟で立ち並ぶ住宅群、そして、フィッシャーマンズワーフで食べたロブスターなどの思い出が今も残る。

千葉豪雨災害－２

加瀬澤文芳

台風２５号豪雨では房総半島南部が大きな被害を受けました。JR 各線も各所で被害を受けました。内房線、久留里線で土砂崩れ、成田線は冠水し不通となりましたが早期に復旧しました。しかし内房線は姉ヶ崎～長浦間で大規模な土砂崩れがあり、復旧工事が続いていました。ようやく１１月９日復旧開通となりました。東京駅から１時間半余の場所で実に１か月半鉄道が不通だったのです。画像は１０月２６日の復旧工事中のものです。線路にはかなり急斜面のがけが迫っており、これまで自然緑地のままで保っていたのですが、何か所も崩落しました。線路に並行している県道も当然埋没し、通行止めでした。







上の２か所のがけ崩れは隣あっていますが、別の場所です。下の画像はその中間にあり、緑地斜面はかろうじて維持されています。しかし側道は土砂に埋まっています。果たして今後この斜面が維持されていくか疑問です。

ＪＲ久留里線は房総半島の中央部に向かう線ですが、最奥部の久留里～上総亀山間は線路下の地盤が流されるなど大規模被害にあいました。なんとこの区間、JR ではこのまま廃線とするとしています。もともと２０２７年３月をもって廃線とすることを



久留里線線路下崩落

届け出ており、復旧を断念すしてこのまま廃線するとしています。当然地域住民からは廃線反対の申し出があり、粘り強い交渉は継続されていますが、今回の被害にとどめを刺され、復旧継続は難しそうです。小湊鉄道は上総牛久から上総中野駅まで２４か所の被災が確認されており、復旧は２０２７年春までかかるとされています。すさまじい。

さらに深刻な被害は南房総鴨川市小湊の土砂崩れによる住宅崩壊です。普通に暮らしていたら突然裏山が崩れ、家が崩壊し、生き埋めになってしまったのです。この地域は山の斜面に住宅が広がっていますが、住宅が車道に接道していないのです。左下画像のように人がやっとすれ違うことができる程度の小道が各戸をつないでいるだけです。幅員がありませんが漁村特例扱いでこの通路を道路として認めているということでしょうか。車が通れる道路に面した家々の背後に崩壊した家がかぶさっています。復旧工事もやりようがなく、全く手つかずのままです。８月豪雨が９月の斜面地地盤崩壊につながったと思います。









開運団地再訪

１１月９日開運団地を訪ねてみました。水は引いていました。ただ人は戻っていないようです。開運団地は東西北三方がかなり急な斜面で登り坂、南方向に下っているのですが、その南に総武本線が走っており小高くなっています。団地の雨排水は一本の排水管からトンネルで線路下を抜けています。その排水口が豪雨で詰まった状態になり冠水したのです。しかも排水先は水田脇のささやかなＵ字溝です。田んぼの中を流れて高崎川に繋がっているのです。そもそも排水計画に無理があったと言わざるを得ません。



水は引いていたが



三方から勾配





最後の雨水配管で放流しJR線路下の開口を抜けているが先は水田脇のＵ字溝

私たちが携わってきた建設行為が気候変動による激しい気象の変化に対応していたのだろうかと考えざるを得ません。この気象は今年だけではないでしょう。JR線脇の斜面が崩壊したことは地形の認識を改めさせられました、接道もなく斜面地に広がった小湊の住宅地開発を認めてきたことは行政も考え直さなければならないでしょう。開運団地のあまりにもずさんな排水計画と無節操な開発計画発等個々の建築物、地域の形態をあらためて見直し、考えてみる必要を強く感じました。

街　の　街　路　樹　1

泉 宏佳

街の景観のことを考えていたら、街路樹の変化に思い当たった。日本や外国の様々な街で、その土地にあった、いろいろな街路樹に出会ってきた。残念なことだが、写真などを残していないので、思い出すままに、印象を書き記してみたい。

■ **小学校時代の通学路の街路樹**；

小学校は**「松江市立雑賀小学校」**。松江の町の中央を流れる大きな川を**「大橋川」**と言ったが、その南の区域を東西に**国道 9 号線**が走っており、また、松江の町を南北に結ぶ広い通りを**「相生通」**と言った。そして、その２本の通りが交わる十字路の西側と南側に広がる地域が雑賀小学校校区で、西側は職人町、南側は「雑賀」の名の通り、松平が紀州から連れてきた**足軽衆が住んでいた町「雑賀町（さいかまち）」**だった。

僕の家は職人町の中ほどにあったから、**「津田街道」と呼ばれていた９号線**を通って、相生通との交差点を下って小学校に通っていた。津田街道は、国道 9 号線とは言いながら、狭い道路でバスがすれ違うのがやっと、と言う状態で、街路樹の余裕はなかったが、相生道りは片側２車線に、２ｍ程の歩道がついており、街路樹が植わっていた。

プラタナスだった。当時、街路樹のある道路は珍しかった。松江で、他に印象に残っているのは、大橋川沿いの**柳**ぐらいだろうか。

中学、高校時代に街路樹の印象はないが、お城の**堀端の黒松**は、武家屋敷沿いの家並と一体となって、松江を代表する歴史的景観だ。



パリの公園のプラタナス



松江；大橋川沿いの柳



松江；堀端の黒松

■ **大学時代の印象**；

大学時代を過ごした広島の街では、ヒロシマの印象からか、**フェニックス**（不死鳥）のイメージがあり、フェニックスは、大学の校章バッチのデザインにも引用されていたが、こちらはヤシの木の仲間で、公共建築の玄関前の空間などに植えられていることが多い。

ヒロシマでは元大学本部の**メタセコイヤ**を思い出す。樹形は円錐形で、高さは２０ｍはあっただろうか？立ち姿は直立不動で、秋の紅葉は見事だった。この木の名前を教えてくれたのは、演劇仲間の黒柳だった。彼は理学部だったが、本部に隣接する理学部正面に並ぶメタセコイヤの並木は、玄関口に並ぶ儀仗兵のような印象があった。



フェニックス



メタセコイヤ



メタセコイヤの紅葉

■ **佐賀のナンキンハゼ**；

３６歳時の１０月、突然、本社から、佐賀県への出向を命じられた。どんな経緯かは分からないが、１１月１日付で建設省経由で行けと言う。事業屋として１０年間働いてきたが、全くの青天の霹靂だった。何をするのかもわからないままに、知事に辞令を貰った日に泊った宿の庭に、真っ赤に紅葉していたのが**ナンキンハゼ**だった。真っ赤な紅葉に、白い実がたわわについていて、対比が鮮やかだった。「葉隠」ぐらいしか知識のない土地で、気持ちがほころんだことを思い出す。また、この地では**クスノキ**の大木をよく見かけた。九州全体に「楠の木」が多い。楠の木の葉は小さく、樹形はこんもりとして包容力がありそうで、そして、幹そのものは太くてガッシリしているが、意外に形は変幻自在、様々な形態のクスノキがある。

関東では、**ケヤキの木**の印象が強いが、特に、枯葉を落とした後の、裸木になった時の、竹箒を逆さにしたような樹形は見事だ。こんなところにも“風土”の相違を感じるのだが. 無骨な九州男児とスマートな都会人と言った所か？



ナンキンハゼ



ハゼの実



ケヤキの裸木

全国幹事会(第 35 回大会期 第 3 回)報告

中安博司

9 月 12、13 日に全国幹事会が東京板橋区の板橋グリーンホールおよび板橋文化会館において開催されました。2020 年 4 月の開催がコロナで急遽 6 月に Web で行われて以来、久しぶりにリアルでの開催でした。千葉から加瀬澤氏と私が参加。全国から 32 名が集まりました。全国では若い会員が入会しており初めて会う方が数人いました。

中島明子代表幹事の開会挨拶で始まり、近年頻発する大規模災害について熊本地震と千葉豪雨災害が報告されました。10 年前の熊本地震でも感じましたが福岡支部の動きに感心しました。豪雨災害についてはちば機関紙にまとめた被害内容を中心に加瀬澤氏が報告を行いました。

続き埼玉での建まちセミナーの募集呼び掛けがあり、全国組織財政では会員がこの 20 年で 524 名減り 581 名で財政的にも厳しくなるとのことで、リアルで会議を開催するごとに赤字になるとの報告がありました。これまで活動の内容を含めた検討を幾つかの分散会で議論して来ましたが、今回は初の試みとして、5、6 人の少人数のグループ(今回は 6 つ)をつくり、一定時間でメンバーを入れ替え数回転し元に戻るという「ワールドカフェ」形式で行いました。時間が足りないと感じることもありましたが自由に意見が述べられるように感じました。会議後の懇親会では新しい常任幹事や全国幹事で初参加の方もおり様々な交流が出来ました。



13 日の午前中は各支部の活動報告で定期的に集まっている支部は充実した活動を行っているようです。千葉支部も高齢化が進んでいますが全国でも同様の傾向が見られました。また若い人が入会する支部の活動が活発と感じました。午後では研究集会の開催地が静岡に決まり、各委員会の検討課題や報告が行われました。建まち編集委員は編集局員の募集、支部ブロック委員会は支部間のサポートの提案、政策委員会は様々のことについての報告、WEB 委員会は新建外への発信強化の検討などが報告されました。また、今回の全国幹事会で「相次ぐ自然災害から被災者の命と暮らしを守り、生活・生業再建への公的支援の抜本的拡充を求める」声明が提起され、承認がされました。乾康代代表幹事より閉会挨拶が行われ散会となりました。

2026.11　　街並景観プランナー　髙山　　登

＜連載＞世界まち歩き第 49 回　　南フランス・ニースからリヨン、パリへ

5. ルシヨン

前回は　プロヴァンス地方の村で、山頂に集中して佇む「鷲の巣村」といわれるゴルドをご紹介しました。続いてゴルドから東へ直線距離で約 10Km の「フランスで最も美しい村」(注) 認証のルシヨンをご紹介します。

注：「フランスで最も美しい村」1982 年に始まった民間協会が、小さな農村の景観や歴史的建物を守るために作った観光の認証。2026 年、フランス全土で 173 村認定。

ルシヨン

ルシヨンは地元の山から採れる自然塗料オークルで彩られた村。オークルはローマ時代から採取された黄土から黄色・赤といった顔料が作られた。全部で 17 色にもなるという。全盛期の 19 世紀から 20 世紀にはヨーロッパ中に輸出されていた。この情報はルシヨンに来て始めて知ることになった。ヨーロッパの古い街並の外壁の多くが黄褐色なのは、この顔料によるものかと推測。しかし現在では化学染料にかわり、ほとんど採取してないらしい。写真①は元オークルの採取場の跡で、遊歩道でとして整備され観光化されており、雄大な景観を楽しめる。



ルシヨンの街並



②

現在「フランスの最も美しい村」協会では、建物の塗装にこのオークルの使用を推進しているという。その理由は時間が経過した後に、風化によって上品なグラデーションが生まれ、素朴な村の魅力を高めてくれるからとのこと。


③

ルシヨンは、黄色顔料の原料となるオークルの丘の上に築かれた村。オークルを使った家々は、金色に近い黄色から褐色、バラ色まで様々な赤系に彩られている。年月を経て一層味わい深い街なみとなっている。写真②は村の目抜き通り、見事にオークルカラーで仕上げられている。経年変化による「色の退色の美しさ」が見てとれる。写真③は村の中心で役場前の広場。淡い色合いが年代を語る。この広場周辺には、アート・ギャラリーや地元の生産物を売る店、カフェなど 17 世紀から 18 世紀に建てられた可愛らしい建物が立ち並ぶ。写真④はガレットで有名なCreperie Le Castrum。この村もゴルドと同じようにお土産屋はない。「フランスで最も美しい村」の認証のある村は総てそのようなお店はふさわしくないと共通して認めていないようである。



④

滞在した宿「オーベルジュ　Omma & Restaurant」


⑤

オーベルジュとは、フランス語で”郷土料理を提供するレストラン付きのホテル”の意味。グルメな人が多いフランスならではの宿泊施設。オーベルジュは地方の自然豊かな環境の中にあることが多いという。リラックスさせてもらい日常とは違った気分で美味しい食事を楽しむ。一般客の利用もあるとのこと。

フランスへは今回で５度目になるが、始めてオーベルジュに宿泊（写真⑤）。極めて快適で最も印象に残る宿であった。田園風景を一望する崖上にあり眺望には絶好の場所、また部屋はゆったりしたメゾネットタイプ、バルコニーにはジャクジーもついていた。

極めつきはディナー、レストラン棟は小さな村なのに意外にもおしゃれな造り。食事は地元の食材をいかしたフルコースを提供。以下のような料理をご紹介したい。

前菜からメイン、デザートをそれぞれ三品から選択。どれも魅力的で大いに迷った。季節の品を取り入れ、メニューは一ヶ月ごとに変わるという。

① 前菜：サーモンのセビーチェ。オレンジなどフルーツ添え。
② メイン：スズキのポアレ。薄く焼いたガレットの下にキノコのソティー添え。
③ ④デザート：洋梨シリーズ。コンポート・アイスクリーム・ケーキすべて洋梨のアレンジ。食後のコーヒーには小さな焼き菓子が添えられていた。


①


②


③


④

最後に

これまでルールマラン、ゴルドそして今回のルシヨンと 3 つの小さな村をみてきた。いずれも団体客を受け入れられないような小さな村である。のどかな田園風景と数百年変わらないと思われる村のたたずまいと生活、この風景を大事に村の人達は取り組んできたのではないか。3 村とも共通して「フランスで最も美しい村」の認証を得た村である。認証の取得では数十項目にも及ぶといわれる厳しい基準をクリアーしなければならい。認証を得るために村づくりに努力して得た結果が、今日にあるとの思いを強くした。

新建の活動と企画

千葉支部の動き

○支部総会 web

開催日：１２月１０日（木）２０：００～

今年は参加し易いよう web で行います

○支部幹事会

毎月第 2 木曜日夜８時から ZOOM で開催しています。支部の企画について話し合うことと支部機関誌「新建ちば」の編集会議をしています。支部会員は自由参加ですので是非ご参加ください。「新建ちば」は会員の日ごろの仕事、活動を紹介することを主にしています。皆様の投稿を期待しています。個別に声をかけさせていただきますので、ご協力ください。

○WEB ちば塾

幹事の持ち回りで原則隔月第１金曜日に開催することにしています。幹事会にて検討中。

○建築・街並み探訪

年2回程度(候補地：市川、行徳、三里塚など)

以上お問い合わせは事務局まで

幹事から・田中和広

想定外の自然災害が多発しています。今後も経験したことがないような自然災害が、起きるかもしれません。それよりも深刻なのは、人為的な悪意によりネット災害が多発して、社会的なインフラに影響を及ぼし、日々の生活が実害を受けて、おびやかされていることです。想定外の自然災害が起きる前に、人為的な悪意によって、私たちの日々の生活が崩壊してしまうかもしれません。ネット災害へのリスク対策を、直ちにやりましょう。

事務局だより

９月豪雨被害を見て廻り、報告させていただきました。特に小湊は全く復旧の対応ができていません。深刻です。(加瀬澤)

新建千葉支部事務局：　株式会社　ゆま空間設計　　TEL:043-253-8801　FAX：043-253-8806
千葉市若葉区みつわ台５－４－１４　　E-mail: office@yumaku-kan.co.jp
新建千葉支部ホームページ　:http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/

発行: 千葉支部幹事会
編集: 千葉支部幹事会
編集ワーク:中安博司

編集後記：コロナ過のウッドショックに始まりロシアのウクライナ侵攻による更なる建築費の高騰、断熱などの高性能化を含め暮らし易い温熱環境になっていますが尋常ではない値上がりで頭が痛いです。(中安)